KT師重賞本命と見解【有馬記念2021】

今年の有馬記念は 2019 年のような消耗戦を想定。
当時のレース上がりは 37.6 秒。サドラーズウェルズの血を持つ馬が 1、2 着。

アーモンドアイはまったく力を出せずに 9 着。
主流のスピードは要求されず、スタミナと馬力が問われそう。

本命はディープボンド。

父キズナの産駒は今年のエリザベス女王杯で 1、2 着。
同レースは有馬記念と同じ非根幹距離の芝 2200m。

1600、2000、2400m の根幹距離 G1 では産駒が勝ち切れなかったが、
遂に G1 勝利を収めたのが非根幹距離でした。

母父キングヘイロー。同母父の産駒は JRA の芝重賞を 9 勝。
一方、400m で割れる根幹距離にあたる芝 2000m と 2400m の勝ち馬はいない。
1800m と 2200m。2500m 以上で 5 勝。
有馬記念で要求される非根幹距離適性にも長けた配合馬。

19 年は 2 着馬とクビ差の 3 着にワールドプレミア。
同馬が勝った今年の天皇賞春のレース上がりは 37.4。
似たレース質のレースで接戦した実績も今年は強調材料。

対抗にエフフォーリア。

父エピファネイアはサドラーズウェルズ持ち。
その父シンボリクリスエスは有馬記念を連覇。
父の弟サートゥルナーリアは 19 年の有馬記念で 2 着。
ある程度流れるペースで行われる有馬記念も向く馬。

3、4 番手にバゴ産駒のクロノジェネシス、ステラヴェローチェ

クロノジェネシスは母父クロフネで姉はノームコア。
クロフネ牝馬は本質はスピード馬。
体重が大型化することでスピード指向になっているので、
流れに乗りすぎると消耗戦ではスタミナ不足の懸念も。
馬券的にはそのパターンにも期待を寄せます。

ステラヴェローチェは母系がスピード型。
ジャパンカップもスピード型は 3 歳の方がいいのと同じように、
3 歳で挑戦のほうがいいタイプ。

パンサラッサは母父モンジュー。
牝系にミルリーフ、アレッジド。
同厩舎の管理馬で宝塚記念 2 着のユニコーンライオンのようなタイプ。